各種調査結果を活用した組織的な授業改善や学力向上等に係る取組について

北海道室蘭栄高等学校　教諭　日向　真樹

本日の内容

1　室蘭栄高校の概要

2　本校の取組

1) 体系的な全国模擬試験の実施とその分析会

2) CBAテストの結果状況の分析

3) 授業改善アンケート

4) 学校評価アンケート

3　今後の課題

１ 室蘭栄高校の概要

１) 令和７年度より完全５間口

令和６年度

３学年　理数科２　普通科４

２学年　理数科２　普通科３

１学年　理数科２　普通科３

間口減に伴い、教員定数の減少や入学してくる生徒の学力(特に普通科)に変化。

1 室蘭栄高校の概要

2) 出身中学校による通学地域の割合

地域	1年生	2年生	3年生	合計(人)	割合(%)
室蘭市	91	92	81	264	41.7%
登別市	46	39	63	148	23.4%
伊達市	35	46	54	130	20.5%
洞爺・豊浦・壮瞥	10	5	14	29	4.6%
苫小牧・白老	13	13	19	45	7.1%
その他	5	2	5	12	1.9%

１ 室蘭栄高校の概要

３) 令和５年度卒業生大学合格者数(現役生徒)

最終進学先

国公立大学	１４３名
私立大学	４６名
看護学校	８名
専門学校	８名
他	２２名

国公立大学	154名	私立大学	237名
北海道大学	１６名	北海学園大	３４名
北海道教育大学	２０名	北海道医療大	４５名
室蘭工業大学	１６名	早稲田大	５名
旭川医科大学	３名	慶應大	１名
札幌医科大学	７名	上智大	１名
東京大	１名	明治大	４名
東北大	１名	青山学院大	３名
東京工業大	２名	中央大	３名
名古屋大	１名	法政大	５名

２ 本校の取組

１) 体系的な全国模擬試験の実施とその分析会

それぞれの模擬試験の結果が返却された後、学年ごとに模試分析会を開催し、結果の分析および今後の指導方針などを共有する

	１　学　年	２　学　年
前期	スタディサポート第１回 総合学力７月 全統実力テスト スタディサポート第２回	総合学力７月 全統実力テスト
後期	総合学力１１月 総合学力１月 スタディサポート	総合学力１１月 総合学力１月 共通テスト模試２月 スタディサポート

＊上記に加え、希望者にハイレベル模擬試験も

２ 本校の取組

１) 体系的な全国模擬試験の実施とその分析会

【日時・場所】　　９月３日（火）　１３：１５～　会議室（職員室側）

【目的】　スタディサポート後の学力および学力推移を確認し、今後の指導の方針を共有する。

【資料】　１．集計データ（度数分布、過年度比較）

２．個人成績一覧（クラス別、順位）

【内容】　１．進路より集計データに基づいた説明

２．各教科担任からの分析

３．担任より学級のことについて（特に気になる点、周知しておきたい点）

４．進路部長より

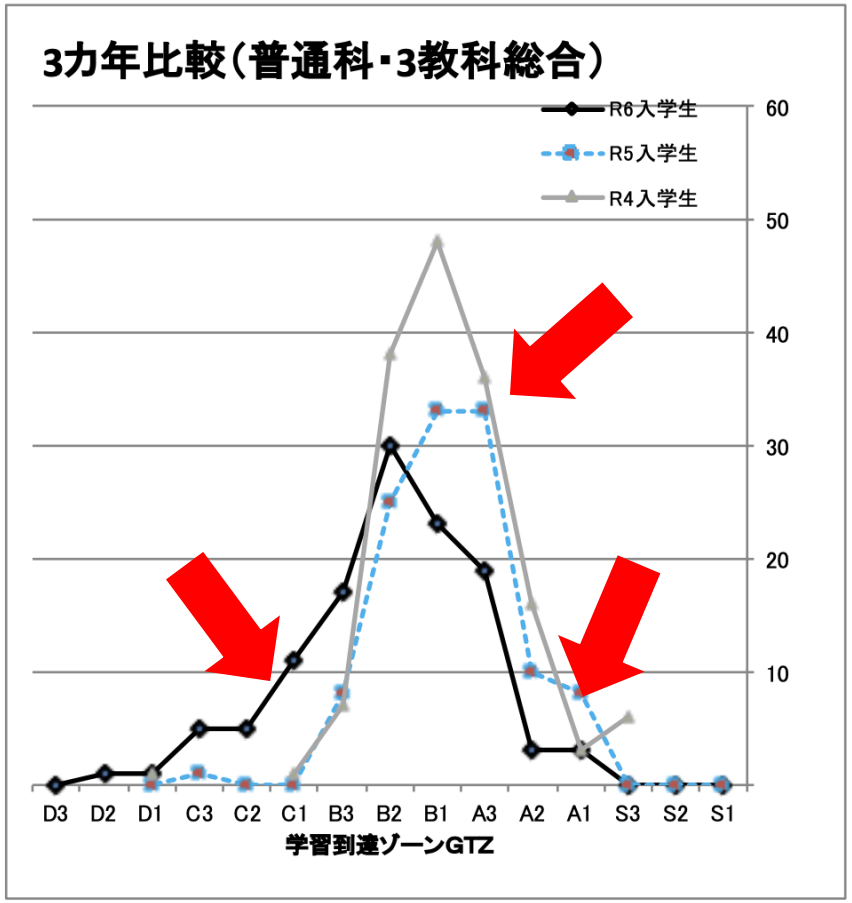
５．学年主任より

2 本校の取組

1) 体系的な全国模擬試験の実施とその分析会

◆３教科総合（普通科）

年度	R6入学生		R5入学生		R4入学生	
グループ	1年普通科		1年普通科		1年普通科	
回	ｽﾀｻﾎﾟ1年1回		ｽﾀｻﾎﾟ1年1回		ｽﾀｻﾎﾟ1年1回	
コース・科目	3教科総合		3教科総合		3教科総合	
受験人数	118		119		156	
平均点	160.2		181.0		180.8	
標準偏差	28.5		21.8		23.0	
平均点偏差値	42.4		49.2		46.7	
満点	300		300		300	
偏差値（人数）	単純	累積	単純	累積	単純	累積
S1						
S2						
S3					6	6
A1	3	3	8	8	3	9
A2	3	6	10	18	16	25
A3	19	25	33	51	36	61
B1	23	48	33	84	48	109
B2	30	78	25	109	38	147
B3	17	95	8	117	7	154
C1	11	106		117	1	155
C2	5	111		117		155
C3	5	116	1	118		155
D1	1	117			1	156
D2	1	118				
D3						

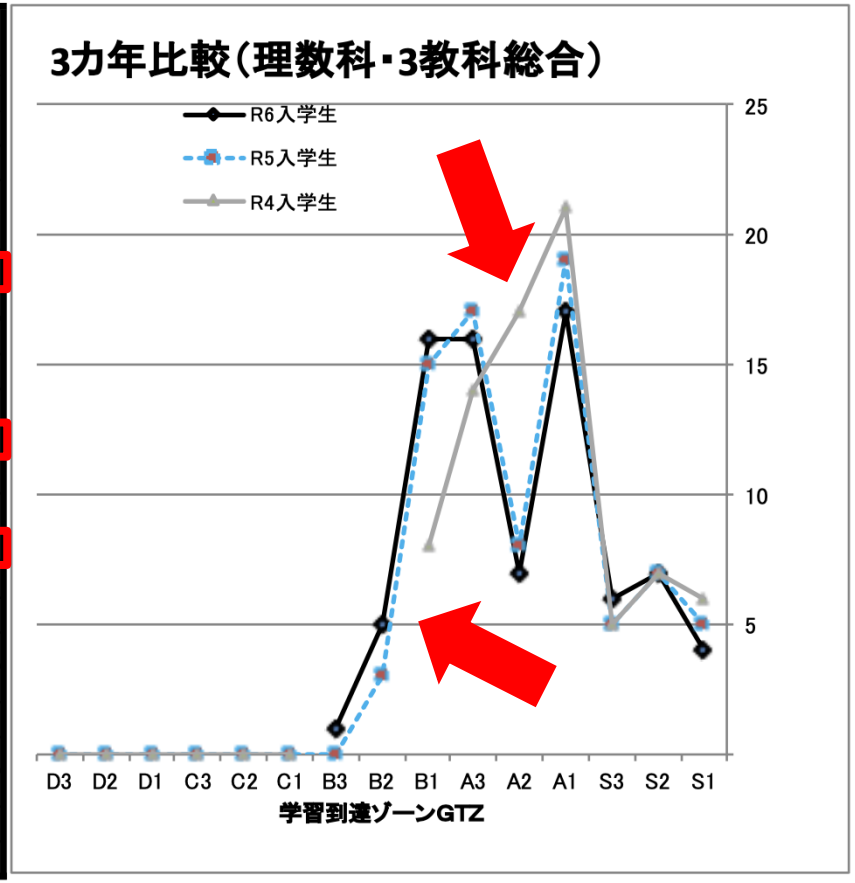


2 本校の取組

1) 体系的な全国模擬試験の実施とその分析会

◆３教科総合（理数科）

年度	R6入学生		R5入学生		R4入学生	
グループ	1年理数科		1年理数科		1年理数科	
回	ｽﾀｻﾎﾟ1年1回		ｽﾀｻﾎﾟ1年1回		ｽﾀｻﾎﾟ1年1回	
コース・科目	3教科総合		3教科総合		3教科総合	
受験人数	79		79		80	
平均点	208.6		210.9		217.0	
標準偏差	28.4		26.7		22.8	
平均点偏差値	54.3		56.3		55.8	
満点	300		300		300	
ゾーン（人）	単純	累積	単純	累積	単純	累積
S1	4	4	5	5	6	6
S2	7	11	7	12	7	13
S3	6	17	5	17	5	18
A1	17	34	19	36	21	39
A2	7	41	8	44	17	56
A3	16	57	17	61	14	70
B1	16	73	15	76	8	78
B2	5	78	3	79		
B3	1	79				
C1						
C2						
C3						
D1						
D2						
D3						



2 本校の取組

1) 体系的な全国模擬試験の実施とその分析会

大問No.	診断項目	小問群	小問	校内S層平均正解率	校内A層平均正解率	校内B層平均正解率	校内C層平均正解率	校内D層平均正解率	校内平均正解率	昨年度平均正解率	全国平均正解率	
01	知識理解語彙	基本単語の用法	3	100.0%	88.7%	68.7%	45.5%	0.0%	71.1%	79.8%	80.2%	much + 不可算名詞
01	知識理解語彙	イディオム	5	90.0%	58.5%	22.2%	18.2%	0.0%	34.5%	51.0%	39.2%	such A as Bが頭に入っていない。
01	知識理解語彙	イディオム	8	100.0%	98.1%	74.7%	63.6%	0.0%	79.7%	89.4%	86.0%	agree with～
01	知識理解語彙	基本単語の用法	9	90.0%	64.2%	34.3%	18.2%	0.0%	42.1%	44.4%	48.7%	leave + O + Cが理解できていない。
01	知識理解語彙	基本単語の用法	10	100.0%	100.0%	100.0%	97.0%	100.0%	99.5%	98.0%	96.5%	expensiveをどの層も選択できた。
02	知識理解文法	文の種類	12	90.0%	64.2%	44.4%	27.3%	0.0%	48.7%	60.1%	62.7%	命令文は動詞の原形で始まる。
02	知識理解文法	動詞の時制	15	100.0%	90.6%	75.8%	42.4%	0.0%	74.6%	80.8%	75.6%	習慣は現在時制。
02	知識理解文法	助動詞	16	100.0%	77.4%	50.5%	24.2%	0.0%	55.3%	59.1%	62.5%	依頼のWill you～?
02	知識理解文法	文の種類	20	80.0%	39.6%	35.4%	24.2%	0.0%	36.5%	39.9%	49.7%	one of～が主語の場合は単数扱い。
02	知識理解文法	不定詞・動名詞	21	70.0%	66.0%	37.4%	6.1%	0.0%	41.1%	53.0%	48.6%	How about～ing?
03	知識活用	知識活用	23	90.0%	52.8%	44.4%	45.5%	50.0%	49.2%	54.5%	44.6%	過去の文と判断できていない。
03	知識活用	知識活用	24	80.0%	45.3%	31.3%	30.3%	0.0%	37.1%	38.4%	41.3%	過去進行形を選択できていない。
03	知識活用	知識活用	26	70.0%	62.3%	29.3%	3.0%	0.0%	35.5%	46.5%	45.1%	make + O + Cが定着していない。
04	リーディング	詳細の把握	39	70.0%	56.6%	38.4%	39.4%	0.0%	44.7%	50.5%	49.2%	細かい部分まで理解できていない。
04	リーディング	展開の把握	41	0.0%	5.7%	7.1%	12.1%	50.0%	7.6%	15.2%	9.2%	whereに飛びついて不正解。
04	リーディング	展開の把握	43	30.0%	30.2%	18.2%	9.1%	0.0%	20.3%	29.3%	28.4%	会話の流れをうまくつかめていない。

2 本校の取組

1) 体系的な全国模擬試験の実施とその分析会

学力・学習バランス

目標域

要注意

学力○
学習△
73人
36. 8%

学力○
学習○
39人
19. 6%

学力△
学習△
61人
30. 8%

学力△
学習○
25人
12. 6%

学力（到達度）	合計	D3	D2	D1	C3	C2	C1	B3	B2	B1	A3	A2	A1	S3	S2	S1
S1	0									2		1	1	1		
S2	0						1		1		2	1	1	1		
S3	0								2	1		2				
A1	0			2		2	2	3	7	3	2	2		2	1	1
A2	0			2	1			2	4	3	4	2				
A3	0			1	1	6	5	7	12	3	3	6	2	1	1	2
B1	0		1	2	4	3	6	5	2	9	8	1	5	1		2
B2	0	1		2	2		1	6	5	5	3	2		1		
B3	0				1		1	1	2	1			1			1
C1	0															
C2	0															
C3	0								1							
D1	0															
D2	0															
D3	0															
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

学習（到達度）

2 本校の取組

2）CBAテストの結果状況の分析

本校生徒の特徴として、やや学習に対して受け身の傾向が見られ、その傾向が調査からも読み取れる。
「総合的な探究の時間」や各教科科目での探究的な学びをより意識する必要性がある。

(6)効果的な勉強の仕方を工夫しようとしている。

回答状況		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
回答割合	当校	41.2% (48.9%)	45.9% (38.7%)	10.0% (9.4%)	2.9% (3.0%)
	全道	28.1% (28.2%)	43.5% (43.5%)	17.7% (18.3%)	10.7% (10.0%)

(7)自分で興味・関心を持ったことは、授業に関係なく調べるなどして知ろうとしている。

回答状況		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
回答割合	当校	34.7% (46.0%)	45.9% (35.7%)	14.7% (14.0%)	4.7% (4.3%)
	全道	40.2% (39.6%)	38.1% (38.0%)	14.6% (14.8%)	7.1% (7.5%)

2 本校の取組

2）CBAテストの結果状況の分析

　タブレットを含むICT機器の活用については、改善傾向だがまだ十分とは言えない。
　教員向けの研修会を通して効果的な活用方法を模索している。

7　ICTを活用した学習状況について

(1)今年度に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

回答状況		ほぼ毎日	週３回以上	週１回以上	月１回以上	月１回未満
回答割合	当校	17.1%　(1.7%)	38.8%　(9.8%)	41.2%　(44.7%)	1.8%　(36.2%)	1.2%　(7.7%)
	全道	35.7%　(31.4%)	30.8%　(28.4%)	23.2%　(25.0%)	6.7%　(9.6%)	3.6%　(5.5%)

(2)学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。

回答状況		４時間以上	３時間以上、４時間より少ない	２時間以上、３時間より少ない	１時間以上、２時間より少ない	30分以上、１時間より少ない
回答割合	当校	6.0%　(0.4%)	1.2%　(1.3%)	13.7%　(4.7%)	16.1%　(14.0%)	20.8%　(27.7%)
	全道	3.2%　(3.0%)	2.1%　(1.7%)	5.2%　(4.6%)	12.3%　(12.2%)	22.1%　(22.4%)

回答状況		30分より少ない	全く使っていない	スマートフォンやPCなどのICT機器を持っていない
回答割合	当校	32.7%　(41.7%)	9.5%　(9.8%)	0.0%　(0.4%)
	全道	31.3%　(32.5%)	23.4%　(23.2%)	0.5%　(0.5%)

(3)PC・タブレットなどのICT機器を活用して、自分に合った学習ができていると思いますか。

回答状況		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない
回答割合	当校	31.0%　(23.8%)	41.1%　(44.3%)	20.8%　(21.7%)	7.1%　(10.2%)
	全道	27.3%　(25.2%)	47.3%　(45.4%)	17.0%　(18.9%)	8.4%　(10.5%)

2 本校の取組

3) 授業改善アンケート

令和６年度授業アンケート集計結果

座学中心科目について

・回答１は「非常に難しい、速い、分かりやすい、聞き取りやすい、理解に役立つ］」という回答を示す。
・回答３は「普通である」という回答を示す。
・回答５は「非常に易しい、遅い、分かりにくい、聞き取りにくい、理解に役立たない］」という回答を示す。
・平均値の見方として、
Ａ）　難易度・進度については、3.00 を大きく下回らず、またあまり 1.00 に近くないことが望ましい
（2.00～2.50 程度が目安か）と考えられる。
Ｂ）　説明・話し方・板書については、基本的に 1.00 に近いほど良いと言える。

質問１：授業で扱う内容の難易度について、あなたはどう感じますか。
質問２：授業進度のペースについて、あなたはどう感じますか。
質問３：先生による授業中の説明は、わかりやすいですか。
質問４：先生の話し方（声量・速さ）は、聞き取りやすいですか。
質問５：先生の板書は、授業内容を理解するのに役立っていますか。

2 本校の取組

3) 授業改善アンケート

- 他クラスの教科担当や過年度と比較することで、授業改善のポイントを明確化する
- 授業公開週間の際に授業見学に行くクラスを決める参考にする

1　3学年普通科

教科・科目		論理国語					古典探究				
項目		難易度	進度	説明	話し方	板書	難易度	進度	説明	話し方	板書
3年1組	1	0%	0%	44%	56%	56%	0%	0%	44%	67%	61%
	2	8%	0%	31%	22%	28%	14%	0%	31%	6%	19%
	3	83%	94%	25%	22%	17%	81%	94%	25%	28%	19%
	4	6%	6%	0%	0%	0%	6%	6%	0%	0%	0%
	5	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	平均	3.03	3.06	1.81	1.67	1.61	2.92	3.06	1.81	1.61	1.58
	人数	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
3年2組	1	0%	0%	42%	67%	64%	0%	0%	47%	56%	61%
	2	14%	6%	31%	19%	19%	19%	3%	36%	36%	33%
	3	72%	86%	25%	8%	11%	75%	97%	14%	6%	3%
	4	14%	8%	3%	3%	6%	6%	0%	3%	3%	3%
	5	0%	0%	0%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	平均	3.00	3.03	1.89	1.56	1.58	2.86	2.97	1.72	1.56	1.47
	人数	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36

2 本校の取組

4）学校評価アンケート

生徒の荷物負担軽減のために生徒個人ロッカーを設置したり、夏季の猛暑対策で略装や猛暑対策グッズを柔軟に認めるなど、スピード感を持って対応している。

令和５年度　学校評価計画

月	自己評価	教職員が保護者・生徒アンケート等を参考に実施
	学校評価者評価	学校関係者（保護者・地域住民等）により構成された評価委員会が自己評価の結果について評価することを基本として実施
6	20（火）	校務運営会議　計画説明
	22（木）	職員会議　計画説明
7	期日未定	１，２，３学年　授業評価アンケート（教務部）
	８（金）	学校評議員会議（管理職）
10	期日未定	中間反省会議（総務部）
11	27（月）	保護者・生徒アンケート URL 通知：一斉メール(URL)及び通知文書(QR) スマートフォンあるいは自宅の PC による回答が困難である生徒・保護者についてはプリントによる回答も可（この旨を一斉メール・通知文書に記載）
	29（水）	保護者・生徒アンケート回答促し：一斉メール
	30（木）	保護者・生徒アンケート 回答締切

1	5（火）	朝打合せ　保護者・生徒アンケート結果共有
	6（水）	教員アンケート URL・QR 周知 回答フォームによる
	８（金）	教員アンケート回答締切
	12（火）	教員アンケート集計結果　発表
	13（水）	自己評価(Excel)の要領に係る確認（該当：教務部・生徒指導部・進路指導部）
1	15（月）	自己評価(Excel)の集約（該当：教務部・生徒指導部・進路指導部から提出）
	23（火）	校務運営会議（自己評価会議）　集約された自己評価の共有
2	期日未定	年度末反省会議　自己評価の全体共有
	期日未定	学校評価委員会（学校評議員・ＰＴＡ会長・ＰＴＡ副会長：管理職） 自己評価の結果にもとづき学校関係者評価を実施
3	15（金）	学校評価報告書　報告
	下旬	令和５年度自己評価としてホームページにおいて公表

３　今後の課題

１) 校種間を超えた交流の増進

・地域ごとの課題の共有

・教員の専門知識やスキルの共有

２) 校内でのＥＢＥへの理解

・データの分析の専門的な知識やツールの不足

・「エビデンス」と「肌感覚」

３) 各種調査結果の更なる有効活用

・エビデンスを意識したデータの読み取り